

【企画書 脳と心と体の整え方：発達障害のお子さんにご家族へ明るく穏やかな未来のために】

1) 本書の狙い

ASD:自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症: ADHD などの発達障害のお子さんが 10 人に 1 人に増えており深刻な社会問題化しています。この増え続ける発達障害のお子さんに対して、国や行政なども様々な対策を行っていますが、まだ十分な対応が取れていません。しかも、発達障害が起こる仕組みは今まではわかっておらず、痲癩や不眠などへの薬物を使用した対症療法的や発達の遅れや困りごとなどに対して、ソーシャルスキルトレーニングなどを含めた療育が行われているのが現状であり、根本的な治療法はないと言われています。しかし、最近の研究によって、発達障害の原因は解明されつつあり、その原因に対しての対応方法も開発されてきています。本書では、当院で行っている発達障害のお子さんとそのご家族を支えるための統合的発達サポートシステムを紹介し発達障害のお子さんを抱える家族や発達障害にかかわる全ての業種に役立ち、その選択肢を広げるのに参考となる内容となっています。

2) 出版の体裁 商業出版。200P 程度、来春の出版を目指す

3) 定価など 未定。

4) 筆者 アイデス・クリニック 院長池田勝紀。
児童発達支援・放課後等デイサービス
キッズプレイスタかなわだい 顧問医師

長男が 2 歳の時に発達障害(ASD と知的障害の合併)と診断され、療育と並行して発達障害に対してマリヤ・クリニックの柏崎良子先生の指導のもとで長男へ栄養療法等を施しながら治療への研究を進め、長男の改善を目の当たりして、発達障害のお子さんやそのご家族の支援のために 2015 年から発達支援外来を開始し 2018 年にアイデス・クリニックと児童発達支援・放課後等デイサービス キッズプレイスタかなわだいを開設し日々、発達障害のお子さんとそのご家族の支援を行なっています。

資格：医師、医学博士、日本抗加齢医学会専門医、日本救急医学会専門医
日本キレーション普及協会認定医、アメリカ先端医療学会 CCT

共著：発達障害の内科的治療の手引き：ヨーゼフ社 2022

取材：発達障害 食事・栄養・キレーション療法をご存じですか?: ウェイツ 2020

アイデス・クリニック HP:

<http://idss-clinic.com>

アイデス・チャンネル

<https://www.youtube.com/@idssclinic3674/playlists>

5) 本の特徴

発達障害にかかわる医療者や関係者をはじめとした一般の読者（発達障害児のご家族を含む）に分かりやすく、アイデス・クリニックと併設施設「児童発達支援・放課後等デイサービス キッズプレイスタかなわだい」で行っている栄養療法や食事療法やそのほかの治療に関する説明を行います。

提供している医療や支援内容の正確さを期すためにエビデンスとして論文や参考文献を各章ごとに載せていく予定です。また解説動画も作成しており、その動画 QR コードも載せる予定です。

可能なら、各分野の専門家へのインタビュー記事や専門家のレビューを受けることが望ましいです。財務的なフォローも必要なため、発達障害のお子さんのための信託業務を行なっている専門家へのインタビュー等も必要と考えます。（専門家は何人か心当たりがあり、著書を書かれている方ですのでこの点でも、書籍の販売にも寄与できる可能性があります。）

5) セールスポイント：発達障害に対して、現在親子への心理的サポート（エッセイ本含む）やサプリメントを使用した栄養療法など、それぞれの手法に特化した対応本は最近増えてきています。しかし、これらの発達障害に対して対応本や個人的経験からのもの、特定の科学的理論から作成されています。この本で紹介する内容は、さまざまな治療手法を、個人の状態に組み合わせて行っていく手法であり、Arizona 大学の Adams らが研究報告している論発達障害への栄養療法の論文や、有害重金属の影響などの論文、国立水俣病研究センターのデータや、東京神経総合研究所の黒田先生らが提唱している発達障害は脳神経のシナプス疾患であり、脳の発達の視点などの科学的視点から発達障害の病態生理

を解き明かし、それらに対して栄養や食事、運動などの物理的な治療手法と認知科学的な発達を促す方法を紹介していく予定です。

その観点では、親の心身の健康管理の問題も大切ですので、マインドフルネスやアンチエイジング的な内容も紹介していく予定です。

(薬剤の使用は否定せず、あくまでも中立的な立場の本を目指す。これによって、通常に医療機関への一種の教科書的な本としても性格も帯びることを目指します。)

また、本文にはすべて、アイデス・クリニックチャンネルで対応する動画があるため、各章の最後に動画の QR コードを添付し、文章と動画での理解を深めることができます。

目次と前書き原稿

- 1、 はじめに (前書き)
 - 2、 発達支援外来での 5 人のケース：動画付き
 - 3、 発達障害とは？ (発達障害から神経発達障害へ)
 - 3.1 発達障害の主な分類 (DSM-5、日本の実情)
 - 3.2 発達障害の現状 (発生率と増加率を説明)
 - 3.3 発達障害が引き起こす影響：2次障害、家庭内環境、社会的影響
(お金の話)：論文入れる、また虐待からの脳の変性も書いていく
 - 4、 発達障害はなぜ起きるのか？
 - 4.1 発達障害の氷山モデル
 - 4.2 発達障害の頭の中では何が起きているのか？
 - 4.3 脳の発達の仕組みから見た発達障害、発達障害はシナプス疾患です
 - 4.4 発達障害は多因子遺伝疾患 (遺伝的因子と環境的因子)
 - 5、 どんな時に発達障害を疑うのか (発達障害：チェックリスト)
 - 6、 発達障害への検査 (現状を知る検査と原因を知る検査)：心理発達検査、機能的検査、画像検査、血液生化学的検査、ホルモン検査、尿中有機酸検査、尿ペプチド検査、毛髪ミネラル検査、Ig G 検査
 - 7、 発達障害への治療と支援
ゴールは発達障害のお子さんをご家族が明るく穏やかな未来をもつこと
本人の持つ才能の発揮と社会的自立が大切。
治療である医療的支援、教育的支援、社会的支援、テクノロジー的支援を
統合的に行う、統合的発達サポートシステムが必要
- 7.1: 医療的支援：アイデス・クリニック

- 7.2: 教育的支援: キッズプレイスタかなわだい
- 7.3: 社会的支援: 相談事業所、ファイナンスの問題まで
- 7.4: テクノロジー的支援: 分身ロボット
- 8、発達支援外来での実際の流れ
 - 初診のときから、外来のスケジュール
 - 併施設での療育や
 - 空手療育: たかなわだいキッズからての紹介を
- 9、終わりに
- 10、謝辞
- 11、問い合わせ先
- 12、 免責事項と注意事項

1,初めに (前書き)

この本を手にとっていただきありがとうございます。

私は、東京の品川で児童発達支援・放課後等デイサービス: キッズプレイスタかなわだいとアイデス・クリニックを夫婦で運営している医師です。

この本では、自閉スペクトラム症: ASD や注意欠陥多動性障害: ADHD、特異的学習障害: SLD や知的障害: ID などのお子さんを持つご家族の方々へ、私たちのクリニックや施設が彼らに対してお行っていることを知ってもらい、日々のお子さん達との生活に役立てもらうことを目的として書いています。

発達に凸凹を抱えるお子さんは、強いこだわりから集団行動が苦手だったり、人間関係がうまく結ばなかったり、授業に集中できなかったり、読み書き計算や運動や生活自立に苦手さがあり、適切な支援がなければ学校生活を含めた日常生活に自信を失いやすく、抑うつや引きこもりなどの二次障害なども起こるリスクが増えていきます。

発達障害のお子さんを持つご両親の将来への不安や心労は非常に重いものがあると臨床や自分の経験を通して私は痛いほど感じています。自分ごとになりますが、自分の長男が2歳の時に知的障害と広汎性発達障害(現在の分類では ASD)の疑いがあると言われた事から今回ご紹介する栄養療法などの生化学的治療をはじめとした様々な発達障害への対応法を学び研究してきました。その学んだことや研究成果を長男に実践することで、長男の知的な遅れと広汎性発達障害は改善していきました。(現在の長男は、いきものと本が大好きな中学生へと成長しています。)

長男の変化から、自分が学び研究したことを、発達障害のお子さんへ提供する為に2015年12月から東京都恵比寿の満尾クリニックで発達支援外来を開始しました。その発達支援外来の経験を通して、単なる治療だけでなく私たちの治療理念に基づいた療育の場の必要性を感じて、2018年6月にキッズプレイスタかなわだいを開設し同年12月にアイデス・クリニックを開院して、外来と療育の2本柱でお子さんの発達を促す活動を行っており、2021年にはキッズプレイスタかなわだいⅡを立ち上げ、現在に至っております。

私たち家族の経験や臨床や最新の知見を含めた研究成果を用いて、お子さんとご家族が明るく穏やかな未来への希望を持って、より多くのお子さんが「自分の才能を発揮し、社会で自立ができる」日が来ることを目標として日々の外来と療育を行っています。どうぞよろしくお願い致します。